

# 生物

## ▼2025年度入試 大問別出題範囲

| 入試区分        | 番号 | 分野                        | 内容  | 難易度 |
|-------------|----|---------------------------|---|-----|
| 特別奨学生<br>入試 | I  | ・生物の特徴<br>・遺伝子とその働き       | ・細胞の違い<br>・遺伝子の発現とタンパク質<br>・代謝と酵素                     | 標準  |
|             | II | ・ヒトのからだの調節<br>・生物の多様性と生態系 | ・免疫<br>・バイオーム   | 標準  |
| 一般入試<br>前期  | I  | ・生物の特徴<br>・遺伝子とその働き       | ・細胞の構造とその働き<br>・塩基組成の関係式<br>・体細胞分裂と細胞周期               | 標準  |
|             | II | ・ヒトのからだの調節<br>・生物の多様性と生態系 | ・神経系と内分泌系<br>・血糖濃度の調節<br>・遷移と攪乱                       | 標準  |
| 一般入試<br>後期  | I  | ・遺伝子とその働き<br>・ヒトのからだの調節   | ・DNAの組成と構造<br>・体液<br>・血球の働き                           | 標準  |
|             | II | ・ヒトのからだの調節<br>・生物の多様性と生態系 | ・血糖濃度の調節と<br>フィードバック調節<br>・バイオームの水平分布と垂直分布<br>・生態系の構造 | 標準  |

## ▼傾向

2025年度の出題数は、特別奨学生入試・一般入試前期・後期ともに20問でした。問題数自体は多くはないので、入試では落ち着いて解けば時間内で全問を解くことは可能です。出題範囲は『生物基礎』の全範囲で、どの単元もまんべんなく出題されています。そのため、合格点をとるには入試までに生物基礎の苦手な単元を無くすことが求められます。共通テストと比べると知識を問う問題が多く出題されているので、教科書レベルの基礎知識はしっかりと身に付けておきましょう。本学は知識に比重を置いた問題となっているので、勉強した分、得点に結び付きやすい良心的な問題構成となっています。

## ▼対策

### ①教科書で基礎知識を学習する

入試問題は基礎知識を問う問題を中心に構成されているので、まずは教科書を読み込みましょう。基本的と思われるかもしれません、入試問題は教科書内容を大きく逸脱することはないので、教科書をベースとした学習を進めていくのが一番効果的です。教科書の太字の用語をしっかりと定着させてください。旧課程と比較すると、新課程では学習する用語が大きく減少していま

す。用語数が少なくなった分、用語を覚えることの重要性は上がっているので、用語の理解は力を入れて学習してください。

学習する際は声に出して音読すると、目と耳両方で学習できるので、効率的に学習を進めることができます。使用する『生物基礎』の教科書は1社でも大丈夫ですが、教科書会社によって記載内容が微妙に異なることがあるため、もし時間に余裕があれば、内容の比較のために複数の教科書で学習を進めていくとさらに知識が広がります。他社の教科書を入手することが難しい場合は、それぞれの教科書会社が出版している問題集で演習することで、教科書を用いた学習に代えることができます。

## ②問題集を解く

教科書で知識が身に付いたら問題集で学習しましょう。知識の定着には演習が一番効果的です。学習は学校で配布されている教科書会社の問題集を用いるのが良いでしょう。解く問題は標準レベルまでをしっかりと演習できていれば大丈夫です。出題範囲は生物基礎の範囲だけなので、学習する問題量自体は多くはないと思います。入試までにできれば一通りの問題を3巡以上こなして、しっかりと知識を自分のものにしておくと安心して入試に臨めます。知識が定着しにくい単元は違う問題集や参考書を用いて学習量を増やし、根気強く学習を進めていけばきっと定着するでしょう。なかなか思うように進まない場合は学校や予備校の先生に学習の進め方を相談し、原因を特定するようにしましょう。

## ③過去問を解く

実力がついたら最後の仕上げとして過去問を解きましょう。本番で緊張しないためにも実際の問題に慣れておくことが必要です。また、自分がどこまで解けるのかを知ることは、入試対策を立てる上で必要です。過去問は3年分以上解くのが理想です。実際に時間を測り試験時間と同じ時間内で解くようにしましょう。解き終わった後は採点をし、間違えたところのチェックをして、間違えたところは必ず問題集や参考書で知識の確認をしてください。

ここまでしっかりと演習を進めることができていれば、入試レベルの実力がついているはずです。ここまで演習を進めても不安のある人は、入試問題と同レベルの類題を探して自信がつくまで演習してみましょう。